

妊婦RSウイルス(母子免疫ワクチン)定期接種をされる方へ

1 対象者

妊娠28週（28週0日）から36週（36週6日）の妊婦、かつ宝塚市民

※接種に際しては、妊娠週数が確認できる母子健康手帳が必要です

※過去の妊娠時にRSウイルスワクチン(母子免疫ワクチン)を接種した方も対象です



市ホームページ
「RSウイルス定期
接種について」

2 費用 無料（定期接種対象者以外の方は、任意接種として有料）

3 使用するワクチン・接種回数・接種部位

ワクチンの種類	接種回数	接種部位
アブリスボ（RSウイルスワクチン）(注1)	妊娠ごとに1回	筋肉内

(注1)RSウイルスワクチンのうちアレックスビーは母子免疫ワクチンとして使用できません

4 RSウイルス感染症について

RSウイルスの感染による急性の呼吸器感染症で、乳幼児に多い感染症です。RSウイルスは年齢を問わず何度も感染を繰り返しますが、初回感染時には、より重症化しやすいといわれており、特に生後6か月以内に感染した場合には、細気管支炎や肺炎など重症化することがあります。生後1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%の乳幼児が少なくとも一度は感染するとされています。

潜伏期は2～8日とされ、発熱、鼻汁、咳などの上気道炎症状が数日続きその後、場合によっては、気管支炎や肺炎などの下気道症状が出てきます。初めて感染した乳幼児の約7割は軽症で数日のうちに軽快しますが、約3割では咳が悪化し、喘鳴（ゼーゼーと呼吸しにくくなること）や呼吸困難、さらに気管支炎の症状が増加します。重篤な合併症として注意すべきものには、1歳以下では中耳炎の合併症がよくみられる他、無呼吸発作、急性脳症等があります。

5 母子免疫ワクチンについて

母子免疫ワクチンとは、妊婦が接種すると、母体内で作られた抗体が胎盤を通じて胎児に移行し、生まれた乳児が出生時から病原体に対する予防効果を得ることができるワクチンです。接種後14日以内に出生した乳児における有効性は確立していません。妊娠38週6日までに出産を予定している場合は医師に相談してください。

6 アブリスボ（母子免疫ワクチン）の効果（妊娠24週～36週の妊婦を対象としたデータ）

	日齢0～90日	日齢0～180日
RSウイルス感染による医療受診を必要とした下気道感染症(注2)の予防	6割程度の予防効果	5割程度の予防効果
RSウイルス感染による医療受診を必要とした重症下気道感染症(注3)の予防	8割程度の予防効果	7割程度の予防効果

(注2)肺炎、気管支炎等の感染症

(注3)多呼吸・SpO2 93%未満・高流量鼻カニューラまたは人工呼吸器の装着・4時間を超えるICUへの収容・無反応・意識不明のいずれかに該当と定義

7 アブリスボの副反応について

発現割合	主な副反応
10%以上	注射部位の疼痛（40.6%）、頭痛（31.0%）、筋肉痛（26.5%）
10%未満	注射部位の紅斑・腫脹
頻度不明	発疹、蕁麻疹、ショック、アナフィラキシー

8 他のワクチンとの同時接種・接種間隔

医師が特に必要と認めた場合は、他のワクチンと同時接種が可能です。ただし、海外の知見で、百日咳菌の防御抗原を含むワクチンとの同時接種で、百日咳菌の防御抗原に対する免疫応答が低下するとの報告があります。接種間隔等については医師と相談してください。

9 接種前の注意

- ① 当日は健康状態を観察し、普段と変わったところのないことを確認してください。
- ② 予診票は、予防接種を受ける時の大切な情報です。責任を持って記入してください。
- ③ 次の方は、RSウイルスワクチンの接種はできません。
 - ・ 明らかに発熱している人（37.5℃以上の人）
 - ・ 重い急性疾患にかかっている人
 - ・ 本剤の成分によってアナフィラキシー（接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応を含む）を起こしたことがある人
 - ・ その他、かかりつけの医師に予防接種は受けない方がよいといわれた人
- ④ 次の方は接種前に医師にご相談ください。
 - ・ 妊娠高血圧症候群を発症するリスクが高いと医師に判断された人、今までに妊娠高血圧症候群と診断されたことがある人、
 - ・ 血小板減少症や凝固障害を有する人、抗凝固療法を実施している人
 - ・ 本剤の成分に対してアレルギーを起こす可能性がある人
 - ・ 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある人もしくは先天性免疫不全症と診断された近親者がいる人
 - ・ 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある人
 - ・ 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状がみられた人
 - ・ 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことのある人、

10 接種後の注意

- ① 接種後30分程度、安静にしてください。
- ② 接種後、局所の異常反応や体調の変化、さらに高熱、けいれん等の異常な症状がみられた場合は、速やかに医師の診察を受けて下さい。
- ③ 接種後は、接種部位を軽くおさえ、もまないようにしてください。
- ④ 接種部位を清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は問題ありませんが、こすらないようにしましょう。
- ⑤ 接種当日は、過度な運動を控えましょう。

11 予防接種による健康被害救済制度について

- ① 定期接種によって引き起こされた副反応により、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。
- ② 国の審査会にて審議し、その健康被害が予防接種によるものと認定された場合に、健康被害の程度等に応じて、国が定めた金額が支給されます。
- ③ 給付申請の必要が生じた場合には、診察した医師、宝塚市立健康センター(0797-86-0056)へご相談ください。



市ホームページ
「予防接種健康
被害救済制度」